

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 玉置 美春

論 文 題 目

カンボジア都市部における

メタボリックシンドロームと関連する生活習慣

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 入山 茂美

名古屋大学准教授 中枿 昌弘

名古屋大学教授 本田 育美

## 論文審査の結果の要旨

カンボジアでは、心血管疾患や糖尿病などの非感染性疾患（NCDs）の増加が顕著である。急速な経済発展に伴う都市化による生活環境の変化が、低中所得国での NCDs の増加の一因とされている。メタボリックシンドローム（MetS）は、血圧上昇や脂質異常、高血糖、肥満などの要因を複合的に持ち合わせた状態であり、NCDs の高リスク因子である。WHO が NCDs のリスク要因として挙げている、不健康な食事や運動不足、喫煙や過度な飲酒などの生活習慣は、先行研究において MetS の発生にも影響を与えることが明らかとなっている。しかし、カンボジアにおいて MetS についての報告はなく、NCDs に影響を与える生活習慣に関する研究も十分でない。カンボジアにおける MetS の有病率や、先行研究で示された様々な生活習慣と MetS との関連が示されれば、現状を知ることができ、多方面からの MetS の予防対策が可能となる。

そこで本研究では、カンボジア都市部に住む人々の MetS の有病率ならびに、MetS に関連する生活習慣を明らかにすることを目的とした。

カンボジアの首都プノンペンにある日系民間病院にて、2017年1月から2019年12月に健康診断を受診した20歳以上のカンボジア人8,769名を解析対象とし、解析に必要な既存の健康診断データを電子カルテから収集し、解析した。




本研究の新知見と意義を要約すると、以下の通りである。

1. カンボジア都市部に住む人々の MetS の有病率は、56.4%(男性 60.1%、女性 52.4%)であった。
2. カンボジア都市部の人々において MetS に関連する生活習慣として有意に関連がみられたのは、男女共に、食べる速さが速いこと、同じ年代の同性と比較して歩行速度が速いこと、飲酒をしていることであった。加えて男性のみ、食べる速さが普通であること、女性のみ、週3日以上朝食を欠食すること、週3日以上夕食後に夜食を食べること、睡眠で十分な休息を取れていることであった。
3. カンボジアの都市部においても、NCDs のリスクを持つものが多い実態が明らかとなり、介入の必要性が示された。
4. 先進国のように健康教育や保健指導による生活習慣への介入が、カンボジアの都市部に住む人々に対しても MetS の予防に有効である可能性が示唆された。

尚、本研究の成果は Journal of Epidemiology and Global Health 誌（Impact Factor:5.959）と International Journal of Environmental Research and Public Health 誌（Impact Factor:4.614）に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	玉置美春
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学准教授	名古屋大学教授
	入山茂美		中朽昌弘	 本田育美 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カンボジアはじめアジアの低中所得国におけるNCDs、METsの現状と本研究の位置づけ</li> <li>2. カンボジアの歴史および文化的背景が結果に及ぼす影響について</li> <li>3. 本研究における研究参加者の特徴について</li> <li>4. 本研究知見の活用への展望について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				